

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願ひ申し上げます。

いつも大変お世話になりありがとうございます。

あつという間に5月です。お天気の良い日は夏のような暑さですね。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

今月は、大山崎山荘美術館にモネを観にいってきました。

大山崎山荘美術館はアサヒグループが所有する洋館で、コレクションの中核は、朝日麦酒株式会社の創業者である山本為三郎の収集した美術コレクションです。

山崎といえば「サントリー」。サントリー 山崎蒸溜所が山荘のご近所でライバル同士が肩をならべている感じが不思議な場所です。さっそくAIに聞いてみました。

「大山崎山荘美術館」と「サントリー山崎蒸溜所」が隣接しているのは、この地が古くから「名水の地」として知られ、酒造りに最適な環境だったからです。アサヒとサントリー、そしてニッカウヰスキーまでが交差する、日本の酒造史において非常に濃密な関係がこの場所に凝縮されています。

・共通のキーワードは「加賀正太郎」・・・美術館の元となった「大山崎山荘」を建てた実業家・加賀正太郎が、両社を繋ぐ鍵となっています。

・サントリーとの縁：1923年、サントリー創業者・鳥井信治郎が山崎に日本初のウヰスキー蒸溜所を作る際、土地の確保に協力したのが、すでにこの地に別荘（現在の美術館）を構えていた加賀でした。

・アサヒとの縁：加賀はニッカウヰスキーの創業者・竹鶴政孝を支援した筆頭株主でもありました。後にニッカがアサヒグループの傘下に入ったこと、また加賀と当時のアサヒビール社長に親交があったことから、山荘が失われる危機に際しアサヒが引き継いで美術館として再生させたという経緯があります。

アサヒとサントリーとニッカウヰスキー、名だたる酒造メーカーに所縁のあるこの地は「天下分け目の天王山」。本能寺の変で信長を討った明智を、備中から急遽戻った秀吉が山崎の戦いで撃破した場所でもあります。歴史的にも興味深い土地ですね！

大山崎山荘美術館が所有するモネは8点あり、そのうち6点が公開されていました。9月以降に2点入れ替えるので、もう一度行けば全ての作品を観ることができます。

安藤忠雄氏が設計した新棟は「地中の宝石箱」と名付けられています。コンクリート打放しの現代的な階段を下り、地中の展示室でモネの絵と対面しました。

モネといえば睡蓮ですが、わたしが一番心惹かれたのはアイリスの絵でした。庭池のほとりにすっと立ち上がったアイリス。ただ無造作に置かれたようにみえる薄紫の絵具が、少し離れてみるとアイリスの花の形をみごとに表現しています。水面へと自然に垂れ下がった細長い葉っぱやあちこちに伸びた花茎が、この場所ですっかりと根付いて、毎年新しい葉と茎を延ばして花を咲かせているのだろうと想像が膨らみました。

そして、アイリスの絵を見ながらわたしの意識は、実家の小さな庭へと飛んでいきました。父が発泡スチロールの空き箱などに好きな植物を植え、こぼれ種から増えた草花がそこらじゅうから芽を出して花を咲かせている庭は、モネの庭とは似ても似つかないのですが、植物への愛情やそこにいる生き物たちの生命の輝きが、場所と時間を超えてモネの庭と共鳴しているように感じて、胸が熱くなりました。

秋になったらもういちど大山崎をおとずれて、残りの作品も観てみたいとおもいます。

秋なんてまだまだ先のようにも思いますが、あつというまに梅雨が来て、夏が来て、、時間の進みが本当に早く感じます。

皆さまもこの初夏のすがすがしい季節を、どうぞ健やかにお楽しみくださいませ。



山荘のお庭もとてもすてきでした。



父の庭のこぼれ種から育った植物が花盛りです

今月も最後までお読みいただき
ありがとうございました。
来月もよろしくお願ひいたします。